

令和4年度
生活困窮及びひきこもり状態の方の居場所から資格取得支援事業
報 告 書

「令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業」

1 はじめに

2 事業概要

3 事業内容

(1)柱1:居場所

(2)柱2:資格取得支援(介護職員初任者研修開催)

(3)柱3:家族支援

4 総括

5 参考資料

はじめに

1. これまでの取り組み、その中から見えてきた課題や把握したニーズ

これまで本会では、生活困窮者やひきこもり状態の方に、相談援助とともに就労支援につながるように、市内の社会福祉施設等と連携協力をしながら、中間就労としての受け入れ体制等を構築してきました。

しかし、特にひきこもりの場合などは、相談に来られる方が家族のみの場合も多く、本人が就労支援までつながるのにハードルが高い印象を受けています。

そのため、そのハードルを下げるための仕組みづくりが必要となっています。これは、新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに本人が外に出る環境が厳しくなり一段とひきこもり状態になってしまいがちです。

また、生活困窮者もひきこもり状態の方も就労するためには資格取得も大きな武器になると思われます。そして、福祉・介護業界では人材不足の課題もあるため、介護の資格を取得し、介護現場等への就労につなげていくことで、自立支援になると思われます。

そのため、生活困窮者やひきこもり状態の方の資格取得支援の取り組みが必要と考えます。

2. 上記課題に本会が取り組む理由

本会では、制度の狭間の課題として平成24年度からひきこもり問題に市内の様々な関係機関とともに取り組みを始め、市内の社会福祉施設等にて、就労体験や中間的就労の場を設ける等して支援をしてきました。また、平成27年度からは生活困窮者自立相談事業を受託し、生活困窮者の相談支援に取り組むことができました。

これらの取り組みから把握された課題であり、その解決を図ることでそれぞれの取り組みを発展させることができ、その積み上げが今後の支援の質向上につなぐことができるため

1 事業名

生活困窮及びひきこもり状態の方の居場所から資格取得支援事業

2 概要

生活困窮者やひきこもり状態にある方の自立支援をすることを目的に、支援の入口としての居場所づくりや出口としての資格取得支援をすることをを行う事業

柱1:居場所

①目的

生活困窮者やひきこもり状態の方が自立できるように、社会福祉施設等の協力によるさまざまな支援体制の充実を図る

②内容

好きなことをして過ごしたり、それぞれに情報交換できる場とし、社会との接点になるまた、福祉ニーズがある人の対応を学ぶため、視察研修を行う

③実施場所(拠点名及び住所)・方法

a.菊川市保健福祉センタープラザけやき(静岡県菊川市半済1865)

b.まいど童夢(静岡県菊川市棚草1258)

④実施期間・日時

月4回

柱2:資格取得支援(介護初任者研修開催)

①目的

生活困窮者やひきこもり状態の方が自立できるように、社会福祉施設等の協力によるさまざまな支援体制の充実を図る

②内容

就職するための資格として、介護初任者を取得できるように講座を開催

③実施場所(拠点名及び住所)・方法

a.特別養護老人ホーム 松秀園(静岡県菊川市高橋2774-1)

b.社会福祉法人草笛の会(静岡県菊川市上平川7-1)

④実施期間・日時

R4. 10~12月(15日間)

柱3:家族支援

①目的

生活困窮者やひきこもり状態の方が自立できるように、社会福祉施設等の協力によるさまざまな支援体制の充実を図る

②内容

ひきこもり状態の方の家族を支援し、継続的に関りを持ち、本人支援につなげていくためにグループ化等の支援を行う

ア.家族交流会

イ.学習会

③実施場所(拠点名及び住所)・方法

六郷地区センター(静岡県菊川市本所2406)

④実施期間・日時

ア.4回(12月、1月、2月、3月)

イ.2回(10月、2月)

柱1：居場所

報 告 書

- 日 時** 令和4年9月8日14時30分～9月9日16時00分
- 会 場** ①みつけばハウス(東京都世田谷区松原6-41-12)
②特定非営利活動法人ネスト・ジャパン(東京都港区高輪1-26-15)
- 内 容** 令和4年度第1回ひきこもり家族交流会
- 用 務** (発達障害の居場所)先進事例視察研修

1 視察場所の内容について

<9月8日(木)>①みつけばハウス

(居場所の運営について)

- ・世田谷区からの委託事業として実施
- ・発達障害者支援の狭間の支援として居場所を行っている
- ・当事者によるピアサポーターと心理職による運営
- ・ワークショップ等を開催し、スタッフも楽しく開催
- ・関係支援機関とのネットワークによる支援

<9月9日(金)>②特定非営利活動法人ネスト・ジャパン

(居場所の運営について)

- ・余暇活動について、本人が参加したい活動へ参加
- ・スタッフが楽しめる活動でないといけない。“楽しむ”が伝わる。
- ・一緒に空間で一緒にやる。気の許せる空間、仲間。学校では得られない体験→楽しい時間
- ・コロナ禍でzoomを活用。来所、オンライン、ハイブリットで開催。しゃべらなければそのまま。参加している人が嫌な思いをしないようにしている。画面offもOK。
- ・子供の頃、友達の家遊びに行き、それぞれが好きなことをして帰るイメージ。

2 視察研修にあたってふらっとスペースとの比較について

※別添資料のとおり

3 所感

今回の視察研修にあたり、別添のとおり事例研究として実施した。本会で開催している居場所ではスタッフ側が発達障害の利用者に気を使いすぎている印象を受けた。

居場所はただ楽しむ場所をして、楽しい時間を安心して過ごせるように開催することを今回視察した2か所の居場所では実践しているようだった。

今回の視察から、静岡県中西部発達障害者支援センターcocoとも相談し、今後のふらっとスペースの運営に参考にしていきたい。



柱1:居場所【人数】

フラットスペース

月	日	利用者	ボランティア	職員	その他	計	内容
4	7	1	2	1	1	5	
	12	1	3	1	1	6	
	19	1	2	1	1	5	
	28	1	2	1		4	
5	11	1	2	1	1	5	
	17	1	3	1	1	6	
	26	0	3	1	1	5	
6	2	0	2	1		3	
	8	0	2	1		3	
	14	0	2	1	1	4	
	23	0	2	1		3	
7	7	0	1	1		2	
	12	0	2	1	1	4	
	19	0	2	1	1	4	
	28	0	3	2	2	7	
8	4	0	2	1		3	
	9	0	2	1		3	
	16	0	1	1	2	4	
	25	0	2	1		3	
9	1	0	2	1		3	
	7	0	2	1	2	5	
	14	0	1	1	3	5	
	22	0	2	1		3	
10	6					0	
	11	1	2	1	1	5	フラワーアレンジ
	18	1	2	1	1	5	ハロウィン
	27					0	スケッチ
11	8	1	3	1	1	6	妖怪お手玉
	15	1	3	1	0	5	お菓子ランドセル
	24	0	2	1	0	3	マリオパーティINスイッチ
12	1	0	2	1	1	4	折り紙で遊ぼう
	7	0	3	1	1	5	クリスマスリース
	13	2	4	1	1	8	クリスマスケーキ
	22	0	3	1	0	4	シュシュを作ろう
1	5	0	2	1	1	4	広告紙の箱作り
	11	0	2	1	1	4	正月明けのゲーム大会
	17	2	2	1	1	6	卯年を作ろう
	26	0	3	1	0	4	脳トレ大会
2	2	0	2	1	1	4	ぬり絵
	14	1	4	1	3	9	ハーバリウム
	21	2	2	1	2	7	ひな人形を作ろう
3	2	0	2	1	1	4	マリオカートINスイッチ
	8	0	4	1	1	6	脳トレ
	14	1	2	1	0	4	藁人形作り
	23	0	2	1	0	3	スケッチ
計		18	98	44	35	195	

柱1:居場所【人数】

作業の会

月	日	利用者	ボランティア	職員	その他	計	内容
4	12	2	2	1		5	ラベル貼り 他
	19	2	2	1		5	社協だより封入 他
5	11	2	2	1		5	ラベル貼り 他
	17	2	2	1		5	社協だより封入 他
6	8	3	2	1	1	7	ラベル貼り 他
	14	2	2	1		5	社協だより封入 他
7	12	1	2	1		4	ラベル貼り 他
	19	1	2	1		4	社協だより封入 他
8	9	1	1	1		3	ラベル貼り 他
	16	1	4	1	2	8	社協だより封入 他
9	7	1	2	1	2	6	ラベル貼り 他
	14	1	1	1		3	社協だより封入 他
10	11	1	2	1		4	ラベル貼り 他
	18					0	社協だより封入 他
11	8	1	1	1	0	3	ラベル貼り 他
	15	1	2	1	0	4	社協だより封入 他
12	7	1	2	1	0	4	ラベル貼り 他
	13	1	2	1	0	4	社協だより封入 他
1	11					0	ラベル貼り 他
	17	1	1	1	0	3	社協だより封入 他
2	14	1	2	1	0	4	ラベル貼り 他
	21	1	0	1	0	2	社協だより封入 他
3	8	0	2	1	0	3	ラベル貼り 他
	14	1	1	1	0	3	社協だより封入 他
計		28	39	22	5	94	

柱1:居場所【写真】

令和4年4月12日(将棋・スイッチ他)



令和4年4月19日(ビーズ)



令和4年4月28日(スイッチ)



令和4年10月11日:フラワーアレンジメント



令和4年10月18日:ハロウィン仮装



柱1:居場所【写真】

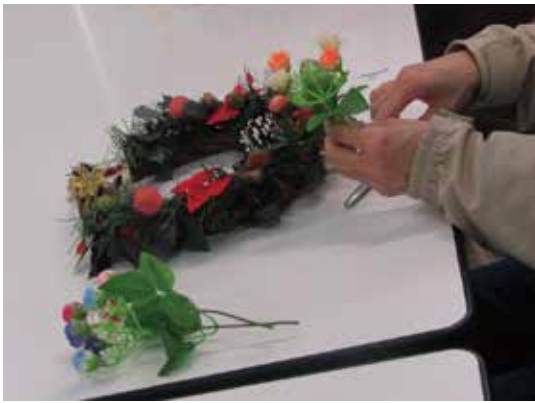
令和4年11月8日:妖怪お手玉作って遊ぼ



令和4年11月15日:お菓子ランドセル背負っちゃおう



令和4年12月7日:クリスマスリース



令和4年12月13日:オリジナルクリスマスケーキ



柱1:居場所【写真】

令和5年1月17日:干支のうさぎ作ってみよう



令和5年2月14日:ハーバリウム作って飾ろ



令和5年2月21日:ひな人形を作ろう



2022年度 菊川市社会福祉協議会職員・ボランティア研修

「ふじのくに発達ピアサポーター」 養成研修

静岡県中西部発達障害者支援センター-COCO

スライドにつきまして、無断転用はご遠慮ください。

1

4. 基本的な接し方

- 「関わり過ぎず、関わりなさ過ぎず」(北九州市引きこもり地域支援センターすてっぴ和田氏)
 - 気持ちに寄り添う
 - 温かく見守る
 - 時には相談にのる
 - 参加者と一しょに場を作る、共に過ごす
 - 本音で自由に話せるようにし、批判・非難をしない
- トラブル回避のためにルール設定をし、周知する

7

もくじ

- 「ふじのくに発達ピアサポーター」について
- 「ピアサポート活動」とは
- 居場所支援の考え方
- 基本的な接し方
- 障害についての基礎知識
- 特性に配慮した支援

2

発達障害当事者活動の例

- Alternative Space Necco (オルタナティブ・スペース・ネッコ)
- イトコサガシ

(以下、今回視察したところ)

- 世田谷区受託事業「みつけばハウス」
- 特定非営利活動法人ネスト・ジャパン

8

1. 「ふじのくに発達ピアサポーター」 について

- 静岡県家族等支援事業が規定する研修を修了した支援者
- 発達障害のある当事者のピア活動に限らず、広く支援に携わる方が対象

3

Alternative Space Necco (金子磨矢子さん)

- 日本で初めての「大人の発達障害当事者による、大人の発達障害当事者のための居場所と作業所」を目指した就労支援施設
- “来たかったらいつでもここに来ていいんだよ”という居場所がある状態をこれからも維持していく
- いろんな場所で苦労している方たちの誰もが気軽に来れるような居場所を準備しておきたい

9

2. 「ピアサポート活動」とは・・・

- 同じ趣味や余暇を持つ人同士がつながる場の提供
- 新しい余暇の広がりを提案する場の提供

居心地の良い場所

安心・安全の場

情報の発信基地

- サロンの活動
- 余暇的活動
- その他

4

イトコサガシ (冠地情さん)

- 同じように悩んでいる人が、どう対策して、どう向き合っていくのか。他人に会ってみたい。
- そう思って最初に「2ちゃんねる」のオフ会に出てみたら、癒された。
- いままでも、「努力が足りない」「みんなやっている」「こだわりが強い」などと言われてきたことも、そこで出会った仲間たちは「そっだよな」と共感してくれる。一方で、次のステップへの発展がないところが不満だった。

10

3. 居場所支援の考え方

- 居場所の定義

本人またはその家族の社会参加を支える場所であり、本人や家族の不本意な孤立を防ぐ場所であって、定期的、あるいは比較的定期的開設され、開設者、または本人・家族が居場所という意識を有している場所

(『居場所づくり実践マニュアル』 特定非営利活動法人 K94全国ひきこもり家族支援委員会 令和2年3月)

5

イトコサガシ (冠地情さん)

- 冠地さんはそれからいろいろな居場所に出かけてみた。
- そこで感じたのは、コミュニケーションが一方通行なこと。常連しかわからないような話題が延々と続き、初めて来た人への配慮が足りないように思えた。
- 「悩みを話す、傷つけ合うこともある。こうして弱者の居心地が悪くなる。それが繰り返されていくんですね。そういう傷だらけの人たちが安心して自分を試せる、自分の可能性を追求できる、自分に気付けるそんな交流の機会を作りたい。」

→イトコサガシのワークショップを各地で開催中。

11

3. 居場所支援の考え方

～参加者の社会性や社会参加の度合いによって提供の場は変わる～

ひきこもりを伴う人への居場所支援	発達障害者の居場所支援
<ul style="list-style-type: none"> ひきこもりから就労に向かうためのステップではない 「ひきこもり否定」が本人にとって大きな脅威となる 「実存的危機(極度の自己否定)」を解決する 安心して、まったりとくつろげる 思い思いの過ごし方ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 人との関わりを積極的に求めている人もいる 自分と話の合う人が欲しい 自分の趣味を追求したい 自分の考えを受け入れてくれる人が欲しい 自分が自分でいられる場所が欲しい

6

5. 障害についての基礎知識

- 発達障害
- 知的障害
- 自閉スペクトラム症(ASD)
- 注意欠如多動症(ADHD)
- 限局性学習症(SLD)
- 発達性協調運動症(DCD)
- 場面緘黙

12

ものの見方、考え方、感じ方

- 一つの見方にとらわれる怖さ
- 柔軟に考えることの大切さ
- 多角的な視点を持つ
- 思い込みから抜け出す
- 常識を疑う

13

Input

情報統合・長期記憶の違いがある
感覚の感受性、感受性がある
心の理論、感情認識の弱さがある

- 復讐的に考える (線性的学習) (局所優位性)
- 明確で具体的であることの理解が良い
- 聴覚への注目が高い
- 概念的なことが理解しにくい
- 因果関係が分りにくく、文脈を理解しにくい
- 全体像の把握が弱い
- 1対1対応で情報を結び付けやすい (物字定規、白黒思考)
- 刺激によりフラッシュバックを起こすことがある (トラウマ)
- 恒常的な刺激を自分で作り出すことで他の刺激入力を遮断することがある (自己刺激行動、常同行動)
- 知覚過敏性による問題を生じやすい (嫌悪刺激、不意打ちの脅威)



19

発達障害の定義

発達障害者支援法(2005)

- 「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であり、その症状が通常低年齢で発現するもの」

(厚生労働省 みんなのメンタルヘルス ホームページより)


- これらは、生まれつき脳の一部の機能に障害があるという点が共通しています。同じく、いくつかのタイプの発達障害があることも珍しくなく、そのため、同じ障害がある人同士でもまったく似ていないように見えることがあります。個人差がとても大きいという点も、「発達障害」の特徴といえるかもしれません。

14

output

実行機能・ワーキングメモリの違いがある
細小動作に難しがる

- 秩序だったことは行動しやすい
- 慣れ親しんでいることは予測がつき、安心して取り組める
- 特定のことに注意集中して没頭する
- 同時に複数のことを進めることが苦手
- 期待されていることが分らず、間違えたり力が定着し固執したり、指示をする人に依存的になりやすい
- 目的や手順を忘れることがある
- 注意の切り替えが難しかったり、特定のことに気を取られたりする
- 変形形成が遅れやすい
- 強成行動障害を起こす場合もある



20


主な発達障害 (厚生労働省パンフレットより)



15

注意欠如多動症 (DSM-5より)

- 「不注意 (活動に集中できない・気が散りやすい・物をなくしやすい・順序だてて活動に取り組めないなど)」と「多動・衝動性 (じっとしていられない・静かに遊べない・待つことが苦手・他人のしゃまを邪魔してしまうなど)」が同程度の年齢の発達水準に比べてより頻りに強く認められる
- 症状のいくつかが12歳以前より認められる
- 2つ以上の状況において (家庭、学校、職場、その他の活動中など) 障害となっている
- 発達に合った対人関係や学業的・職業的な機能が障害されている
- その症状が、統合失調症、または他の精神障害の経過中に起こるものではなく、他の精神疾患ではうまく説明されない
- 有病率は、学齢期の小児の3-7%程度



21

知的障害の定義 (厚生労働省 知的障害者基礎調査より)

知的機能の障害が発達期 (おおむね18歳まで) にあられ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別な援助を必要とする状態にあるもの

知的障害であるかどうかの判断基準

- 次の (a) 及び (b) のいずれにも該当するものを知的障害とする
- (a) 「知的機能の障害」について
標準化された知能検査 (ウェクスラーによるもの、ゼネーによるものなど) によって測定された結果、知能指数がおおむね70までのもの
- (b) 「日常生活能力」について
日常生活能力 (自立機能、運動機能、意思交換、探索操作、移動、生活文化、職業等) の到達水準が総合的に同年齢の日常生活能力水準 (別記1) の a, b, c, d のいずれかに該当するもの


16

学習障害/限局性学習症 (Specific Learning Disorder)

- 知的能力に比べて学力が著しく低く、通常の学習で成果が上げられない
- 【読み障害】 読みの正確さ、速度、流暢さ、文章の理解度低等
- 【書き表現の障害】 綴り、文法、句読点、文章の明確さや構成の正確さ等
- 【算数障害】 数感覚、計算の正確さや流暢さ、数学的思考等

【厚生労働省e-ヘルスネットより】

- 発生頻度はアルファベット語圏で3-12%と報告されている
- 日本では2012年小中学校教師を対象とした全国調査によると、学習面に著しい困難を示す児童生徒は4.5%存在する



22

知的障害の程度 (厚生労働省 知的障害者基礎調査より)

知能水準がa~dのいずれかに該当するかを判断するとともに、日常生活能力水準がa~dのいずれかに該当するかを判断して、程度別判定を行うものとする。その仕組みは下図のとおりである。

知能水準	a	b	c	d
I (IQ 70-79)	軽度知的障害			
II (IQ 60-69)	軽度知的障害			
III (IQ 50-59)	中度知的障害			
IV (IQ 40-49)	重度知的障害			

知的発達の遅れによる生活適応能力の障害

17



23

自閉スペクトラム症 (DSM-5による)

A. 社会的コミュニケーションおよび相互の関係性における持続的障害

B. 興味心の限定および反復的なこだわり行動・常同行動
感覚入力に対する感受性あるいは鈍感性、関心

C. 症状は発達早期の段階で必ず出現するが、後になって明らかになるものもある

D. 症状は社会職業その他の重要な機能に重大な障害を引き起こしている

【厚生労働省ホームページより】

- 最近では100人に1~2人の発症率とされている
- 併存疾患 約70%以上の人が1つ、40%以上の人が2つ以上の精神疾患を患っているといわれている

発達凸凹

18

選択性緘黙 (DSM-5より)

- 不安症のうちの一つ
- 他の状況で話しているにもかかわらず、話すことが期待されている特定の社会的状況において、話すことが一貫してできない
- その障害が、学業上、職業上の成績、または大人的コミュニケーションを妨げている
- その障害の持続期間は、少なくとも1カ月である
- 話すことができないことは、その社会的状況で要求されている話し言葉の知識、または話すことに関する楽しさが不足していることによるものではない
- その障害はコミュニケーション症ではうまく説明されず、また自閉スペクトラム症、統合失調症、または精神病性障害の経過中のみ起こるものではない

24

経験者の言葉 (『子どもの場面観察サポートガイド』金原洋治・高木潤野著合同出版)

- 声を聞かれるのが嫌だった
- 話そうと思うと喉がぎゅっと締まった感じになった
- 人の反応や他者からの否定的評価が怖かった
- もともと家以外の場所で話すことが苦手で、何を話せば良いかわからなかった

入園や入学、転校やいじめなどをきっかけに不安が急に高まり、不安を解消するためにしゃべることが抑制され、それが固定化して話せなくなる=想像を超える不安と恐怖の中にあると考える

25

主にSLD、知的障害

- 『何に困っているか』に基づいて教材の提供に配慮をする

困難さに応じて一箇と地のコントラスト、フォント、行間、文字間、マス目、情報量、優先課題に応じた工夫、ICT機器、得意を生かす等

- 日常的に支援を提供する(日常的に困難があることを忘れない)

評価の工夫、支援グッズの活用、困難さに対応した教材の提供 等

- 自尊感情を育てる

うまくやれる方法を教える、学び方が違うだけである周囲の理解を促進する 等

31

全般的な二次的問題と併存症

- 障害の特性について、本人や周囲の理解がない場合

不適応をおこす→二次的な問題が生じる

無気力、引きこもり、うつ、不安、身体の不調、一時的な幻想や妄想、被害感情、攻撃的言動…

併存症を持つ場合もある

てんかん、チック、うつ、不安、体の疾患等

家庭内暴力、精神障害、突発的な事件化、不満の鬱屈…

26

主にDCD

- 活動の提供に配慮をする・支援グッズを活用する

集中できる環境(衆目の中で負荷をかけない配慮、動機づけ)課題の選択、理解を助ける指示の方法

個のペースやスピードに応じた時間設定、評価の工夫、補助具 等

- 生活の文脈に沿った介入、日常的に支援を提供する

- 自尊感情を育てる・周囲が困難さを理解する

失敗体験を積み重ねない工夫
自己効力感を上げる実現可能な目標設定
信頼している人から肯定される(社会的報酬)

32

6. 特性に配慮した支援

【基本的な考え方】

- 人として尊重し合う
- 違いを理解する(ものの見方、考え方、捉え方、行動するや表現の仕方等)
- 違いに応じた個別の対応をする
- 「社会モデル」の考え方を踏まえる
- 予防的に対応する

27

主に選択性緘黙

- リラックスできる環境を整える

ドア、カーテンなどの場所、位置などにおける不安を除いた空間設定
時間帯などの他者の存在による不安を除いた時間設定、活動内容設定

- 話すことを強要しない

身振り、指差し、絵や写真、筆記などでの意思表示などの非言語コミュニケーションを大切に
選択肢を用意したり、ICT機器を活用したりする

- 声をかけると答えや反応を求めず、さりとした接し方をする
- 緊張や不安を和らげる

受け入れられている実感を持つようにする
何をすればよいか活動を明確にする 等

33

ICFモデル

International Classification of Functioning, Disability and Health, 国際生活機能分類(WHO)

「生きることの全体像」についての「共通言語」
全てが全てと影響し合う相互作用モデル

28

居場所支援によりみられた変化(本人の感想)

(『青年期・成人期における発達障害者の「居場所」』2010年 秋田大学 柴田氏)

- 外出のきっかけになった
- 居場所ができ、生活の幅が広がった
- 日頃の生活の励みになっていた
- ありのままの自分を出せる
- 自分の意見を進んで言えるようになった
- 同じような境遇の人の存在を知り励みになった
- 支援者とのつながりが強くなった
- 他者とのコミュニケーションが少しずつとれてきた
- 生活のリズムが安定した
- 自分の特性についての気づきがあった

等

34

障害特性に応じた支援の工夫

主にASD

- 構造化された教育(TFACCH)の原則に従う
- 情報の整理を補助するため、枠組み・組み立てを明確にする

空間・時間・活動・材料・ルーティンの整理統合、予測可能性の補償 等

- 顕在的学習をする

直接的に・具体的に・シンプルに・視覚的支援 等

- 柔軟性を育てる

交渉と譲歩、選択、一般化 等

- セルフモニタリングができる

わかるように説明し納得して取り組むことができるようになる
自己理解を進める 等

29

居場所支援+・・・

- 居場所支援
- テーマ別ワークショップ
- 茶話会
- 相談会
- 学習会

• 情報提供
• 他のイベントにつなぐ

- 当事者会
- 家族会

数値義務を課さない
期限を決めて成果を求めない
型にはめない

35

主にADHD

- 支援グッズの活用-シンプルなのはたからきかけをする

整理整頓グッズ、注意喚起グッズ、エネルギー発散グッズ、意欲喚起グッズ等

- 後追いの注意をせず、先に注意喚起する

皆の前での注意や叱責をしない
今やるべきことに注意が向くようにする(優先課題を考える)等

- 短いスパンでの目標設定をする

数を絞って取り組む、即時評価をする、トークンシステムの活用 等

- 自尊感情を育てる・ほめる

自信をつける、比較しない、ギリギリセーフをほめる 等

30

柱1:居場所【アンケート・ヒアリング】

アンケートの対象者層		20代～60代		
利用者・参加者数（人）		回答者数（人）		回答率（%）
5		5		100%
とても満足（人）	満足（人）	やや不満足（人）	不満足（人）	未回答またはアンケート対象外（人）
2	1	2	0	
満足・不満足の主な理由（自由記述）				
<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんが優しくしてくださるので。 ・物を作るのも楽しいし、人と会って話すの楽しい。人とのつながりがありがたい。ボランティアという感覚もなく、むしろボランティアしてもらっている。 ・居場所作りとしての事業はとてもいいと思います。ボランティアとしてもやりがいがあります。でもどのくらいの人たちが（発達障がい他）この場所を知っているか、声かけのむづかしさがあると思う。利用者が家から出てほしいです。 				

居場所について、①作業を中心とした居場所と②ワークショップ等趣味等の活動を行う居場所で開設をしました。

②については、静岡県中西部発達障害者支援センターCOCOにアドバイスをもらったり、視察研修からヒントを得てワークショップ方式を取り入れて実施をしました。

しかし、支援機関の担当者が交代したことに伴い、支援機関と対象者との関係性が変わり、対象者が居場所への参加になかなかつながらなかった。

居場所の活動についてFacebook等を通じて広報したこともあり、問合せも入るようになり年度の後半には参加者も出て来ました。

ワークショップでは、参加者の主体性を大事にし、何がやりたいか等のコミュニケーションをとりながら決めての開催をした結果、参加者の内ひきこもりや発達障害当事者からは「満足」という評価が得られました。

柱2:資格取得支援

柱2:資格取得支援<カリキュラム時間数(初任者)>

三幸福祉カレッジ介護職員初任者研修(通信)カリキュラム

時間数内訳 ※休憩時間および1日目のオリエンテーション(0.5時間)を除く

講義・演習	科目	講義・演習	通信学習	実習	時間数(合計)
1日目	1 職務の理解	6時間	0時間		6時間
2日目	2 介護における尊厳の保持・自立支援	1.5時間	7.5時間		9時間
	3 介護の基本	3時間	3時間		6時間
3日目	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	1.5時間	7.5時間		9時間
	5 介護におけるコミュニケーション技術	3時間	3時間		6時間
4日目	6 老化の理解	3時間	3時間		6時間
	7 認知症の理解	3時間	3時間		6時間
	8 障害の理解	1.5時間	1.5時間		3時間
5日目	9 ころとからだのしくみと生活支援技術	I 基本知識の学習	6時間		75.5時間
6日目					
7日目		II 生活支援技術の学習	6時間		
8日目					
9日目					
10日目					
11日目					
12日目					
13日目		III 生活支援技術演習	0時間		
14日目					
15日目	10 振り返り	4時間	0時間	0時間	4時間
	修了評価(筆記試験)	1時間			
合計		91時間	40.5時間	0時間	131.5時間

株式会社日本教育クリエイト
三幸福祉カレッジ
TEL: 054-653-1600

柱2:居場所【アンケート・ヒアリング】

アンケートの対象者層		10代~60代		
利用者・参加者数(人)		回答者数(人)		回答率(%)
11		11		100%
とても満足(人)	満足(人)	やや不満足(人)	不満足(人)	未回答またはアンケート対象外(人)
4	7			
満足・不満足の主な理由(自由記述)				
<ul style="list-style-type: none"> ・試験後私は介護の仕事を探しています。働きながら日本語を勉強を頑張ります。 ・高校卒業して会後の仕事につくときにいままで習ってきたことをいかしていきたいなと思いました。 ・現在介護施設で働いていますが、未経験で現場に入ったこともあり、ただ作業として介護の仕事を行っていました。今回初任者研修を受講し、基本的知識を身につけることができ、なぜこうしなければいけないのか、この場面で取るべき行動や言動はなにかを考えて実践することができました。 				

柱2:資格取得支援についてのまとめ

資格取得支援として、介護職員初任者研修の講座を開催しました。この講座を修了することで「介護職員初任者」という資格を取得でき、介護に必要な基本的な知識と技術を身につけることが出来るようになります。

そのため、就職に有利となることが予想されるため、現在仕事を探している人や知識がなく福祉の仕事を始められた人が継続的に仕事を続けられるようになります。

令和4年度は、日本教育クリエイトに講座内容を委託し、会場を菊川市総合保健福祉センタープラザけやきと社会福祉法人白翁会の特別養護老人ホーム喜久の園として開催をし、12人に申込みをいただき、最終的に修了となったのは11人でした。

参加者の参加動機は人それぞれでしたが、参加者からは「満足」という回答が多く寄せられました。

この資格取得支援は、ひきこもり状態の人や生活困窮者等の人の就労や就職支援を目的として実施をしていますが、福祉現場の人材確保にもつながる取り組みとして実施することができました。

柱3: 家族支援

報 告 書

日 時 令和4年10月30日13時30分～15時00分

会 場 六郷地区センター 多目的ホール

用 務 ひきこもりに関する学習会

【報告事項】 ひきこもりに関する学習会が開催されましたので、下記および別紙に報告します。

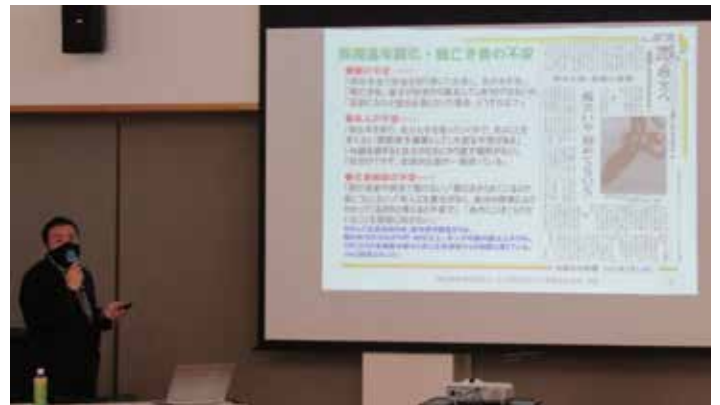
内 容: 講演「ひきこもりの理解と対応 家族支援とつながり続ける支援」

講 師: 深谷守貞氏
(NPO 法人KHJ 全国ひきこもり家族会連合会本部事務局所属ソーシャルワーカー)

参加者: 19人

会場をコの字形に設定し、講師を交え和やかに顔が見える様に設定した。講師に質問を交えながら進めてもらう様に依頼していたが話でいっぱいになり(質問のタイミングも難しく)、15時終了後数人が質問などしている姿が見受けられた。講師からは、ひきこもりの理解と対応、家族支援とつながり続ける支援をテーマにご講演頂いた。

- ・ひきこもりの現状:若者から全世代へ 推定115万人
- ・8050問題:親が要介護状態になりやすい、50代社会参加や居場所が少なくなる。生活困窮・社会的孤立に陥りやすい
- ・家族支援:社会資源との連携
- ・家族会:家族も孤立感や不安が高い傾向にある。家族会はホッとできる場所、本音が話せる場所。気持ちの吐き出し・同じ立場ゆえの分かち合いの重要性、兄弟姉妹の会
- ・本人の居場所:自分だけじゃないんだとわかってホッとした。出たくても出られる場所がなかった。
- 利用者同士の交流、レクリエーション、運営者による相談活動が有効
- 就労支援、訓練の有効性は薄い
- ・課題解決のための支援とつながり続ける支援
- ひきこもりは課題が見えにくい。つながり続ける中で家族も変化していく。課題が出てくる。
- ボランティアは橋渡し。ひきこもりの「関わらないで!」隠そうとする気持ちは大切に。ひきこもりではない小さなところからつながる。
- ・本人の持つ資産【能力や強み】に着目する。出来ないことでなく、出来ることに着目する。
- ・本人を尊重する支援:本人のあるがままを肯定し、本人を置いてきぼりにしない
- 本人は、自分の足で、自分のペースで、歩いている実感があると安心する。
- 本人を引きずり回さない、斜め後ろからそっと支える支援を考えたい。
- 講師自身のひきこもり経験なども交え、聞きやすくわかりやすくお話いただいた。



2022.10.30 蒲川市社会福祉協議会

ひきこもりの理解と対応

家族支援とつながり続ける支援

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会
本部事務局・ワークショップ 塚谷 守貞 (社会福祉士)

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

なぜ8050が問題になりやすいのか?

●親80代、子50代ゆえの状況特性

- 80代を超えると、要介護状態になる統計割合が半数弱 (2021厚労省)
- 健康状態の不安定さが心理的な鬱鬱につながりやすい
- 家族への参加や相談窓口へ行くことへのハードルも、身体的にも難しくなる(子)
- 50代を超えると社会参加の機会が少なくなり(就活の難しさ)
- 50代向けの安心して出掛けられる居場所が極めて少数

●生活圏面に陥りやすい

- 親の年金限りだったり、貯金が尽きたりする(持ち家などで生活を断られたり...)
- 高齢福祉分野の専門職では物理的に、50代の本人へのケアまで対応が難しい
- 親が要介護状態になると、QOL等、生活レベルが著しく低下する。

●社会的孤立に陥りやすい

- 親が近所付き合い等の近隣の関係性が途絶えると、地域社会で孤立しやすい
- 親が健康などで倒れたことで、高齢者のひきこもりが発見されることもある
- 親が福祉制度の活用を拒む(福祉の世話にはなれない!)

KHJ全国ひきこもり家族会連合会

団体紹介 KHJ (Kazoku・Hikikomori・Japan)

NPO法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会

1999年設立 唯一の全国組織のひきこもり家族会(当事者家族会)
(現在39都道府県 55支部 約3200人が参加) 福島のひきこもり家族会(2018年)

発足当時は「ひきこもり」=自己責任(甘え・怠け)、親の育て方の問題として
強い社会的偏見があった。家族も本人も誰にもどこにも相談できなかった。

「ひきこもりなければきっと死んでいた、ひきこもりざるをえなかった」

現在は、ひきこもりの長期高齢化が進み、社会的孤立(8050問題)が深刻化。
ひきこもる原因、きっかけは多様だが、問題の本質は孤立の悪循環。家族も本人も
世間との縁を断ってしまい、自力ではひきこもりから抜け出せない状況に。
「ひきこもりは、社会全体の課題であり、地域課題でもある」
(平均25歳から一貫して厚生労働省 社会・福祉局長の重要事項)

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

ひきこもりは苦しいぞうけれど...

= それは「ひきこもりざるを得ない」苦しみ

○周囲から理解されない苦しみ
家族からも周囲からも理解されないその渦中にある。
自分でも自分の状態を説明できないので、周囲も理解を深めようとしてない。

○ひきこもるきっかけの痛と今のひきこもりという状態と...
二重の傷つきに感傷していく苦しみ
学校や社会で人の関係性等に傷ついたり、生きるためのエネルギーを
費やすまで消耗した(毀滅した)人も多い。

○傷つけられたいと自分を守るこの苦しみ
これ以上傷つけられたい、他人に迷惑をかけたくない、今度傷ついたら、
もう立ち直れないかもしれないという不安と自信喪失。

○これらが絡み合い「～したくてもできない」高層が強まる苦しみ
外に出たくても出られない、働きたくても働けない状態。
→他者とのつながりの消失、社会的孤立へ

※人間関係に対して傷つきやすい特性があるため、不適応な体験がトラウマになりやすく、傷つき経験、失敗体験が深く残りやすい。

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

ひきこもりは若者から全世代へ

全国推定115万人(内閣府2018年2015年調査より)

ひきこもり状態になった年齢は全年齢層に大きく開いたり分布している。

内閣府のひきこもり調査

時期	該当者(単位)	年齢
2010年	69.6万人	15～39歳
2015年	54.1万人	
2018年	61.3万人	40～64歳

調査をした全国5000世帯のうち
有効回収数(3,248人)の1.45%が該当
15～64歳のひきこもり
全国推定 115万人

「人は、どの世代でも、どの年代からでも、誰でもひきこもる可能性がある」

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

発表者のひきこもり体験から

○自宅にひきこもった期間
2010年3月から2012年8月頃まで
40歳～42歳までの2年ほど自宅にひきこもった

○ひきこもりの直接の原因
33歳の時に発症。原因が分からず心身症状が「うつ病」止らず。休職。仕事も休職。向精神薬の大量処方とアルコールの乱用。離婚。退職。向精神薬の処方が高じて幻覚が現れ、外出できなくなる。

～しかし、ひきこもる前から「生きづらさ」を抱えていた
→ 機能不全家族による生育
小学生時代に教師からのいじめ・圧力による
人との適度な距離感が上手に取れない
不意な言葉を聞いて自分も周りも傷つけてしまう

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

長期高齢化傾向①～ひきこもり本人の年齢の推移～

(KHJ家族会を対象とした最新の実態調査) KHJ全国ひきこもり実態調査2022より

本人の平均年齢 26.6歳→36.3歳(2002年から約10歳上昇)

【高齢化傾向】
・調査者(本人)1316人中
40代以上の本人の割合は44.9%
(調査対象者の数)
50代では14.2%

【8050の傾向拡大】
ひきこもりの高齢化の傾向が顕著になっており、若年層ばかりでなく高齢層のニーズにも合わせたケアやサポートが必要となっている。

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

○ひきこもっていた時の体験(一例)
幻覚や妄想で「目を覚まして、自分を見つめたい。ただ自分を責めるだけの日々。実際に世間になるやせせさ、シャワーやトイレの水を使う後ろめたさ

○ひきこもっていた時の家族の関わり
父は放任。誰れ物に頼るような感じ。母は過干渉。3日に一度は手紙を書き寄せてくる。

○社会資源と関わりとしたいきっかけ(2011年夏頃)
母の手紙が止んだ⇒「虚言で慰められたい」と思った
通院しないので向精神薬の服用が止まり、幻覚が頻発し出なくなつた。部屋にFAX電話があった。

～このFAX電話で外部の機関、第三者と繋がることができた。
→様々な相談機関に電話し、KHJの居場所につながり社会参加へ

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

長期高齢化傾向②～親の平均年齢について～

(KHJ家族会を対象とした最新の実態調査) KHJ全国ひきこもり実態調査2022より

家族の高齢化 65.3歳

(調査開始から約5歳上昇。
65歳を超え家族会に来られなくなっている。定年を過ぎ、年金生活を送っている家族が多くなっている)

【支援の必要性】
●家族の81.1%、本人の64.6%が支援の必要性を訴えている
●調査者の74.4%、本人の51.9%が家族支援が必要と判断。また、きょうだいへの支援も必要とする割合は、本人の95.6%が必要と判断している

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

ひきこもりの苦しみとは

自尊心や自己肯定感が損なわれる苦しみ

●コミュニケーション(言語化)が苦手、対人不安と強い緊張がある
※自己の状況や思いの言語化の困難(自分のことをうまく言葉で表現できない)
※他人への不安(相手は自分をどう受け止めるのか)
※親の世話を焼くのが、負担の中にも責任感が分らない
※緊張が高じて心と身体のコントロール不能(不眠、食欲不振)
※一方がよくなるが、相手の顔はあまり見られない(離れ取りが強い)

●失敗への恐れ(恥をかきたくない。自分は他の人の邪魔になる存在)
●社会参加による自尊心喪失、自己否定感 ⇒自分から引いて
●自尊心の低さを補う高責任とプライド(徹底的、高責任の態度に敏感、傷つきやすい)
●問題解決を急ぐ行為への抵抗感(急がせられたり、～させられることへの抵抗)
●見えない社会資源への拒否感、恐怖感(周囲の力)⇒時間がかかる

●発達特性や精神的な抑圧への理解(こんなに辛いのに...)
●発達遅延、認知症、人に合わせることを苦手、こだわりをされることへの拒絶感
●一定距離の保持(自分は本来はコミュニケーションが得意なのに社会が関係して...)
●反対に「自分から責任」の気持ち、いっせいの責任もある(自分自身から...)
●目の前の一歩を大事にできない(自分が何をすれば良いかわからない)

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

長期高齢化・親亡き後の不安

●親の不安...
「現在年を計るを切り削いで生活し、先行き不安」「親亡き後、息子が社会から孤立して30代はないか」「高齢になり介護が必要になった場合、どうすれば?」

●本人の不安...
「親を年を取り、自分も年を取っていく中で、先のことを考えると(親や子や孫など)大きな不安がある」「40歳を過ぎると自立のためにやり直さなければならない」「就労ができて、金銭的な面が一層困っている」

●兄弟姉妹の不安...
「親が高齢や病気で倒れない」「親はあきらめていないか」「親に代わって、自分も自立して生きていく」「自分も自立して生きていく」「親に代わって、自分も自立して生きていく」

●親の平均年齢が70代・80代以上、本人の平均年齢が40代以上70%、ひきこもりの高齢化傾向と共に兄弟姉妹からの相談も増えている。(KHJ調査2021)

山梨日報 2015年3月13日

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

本人を取り巻く環境(社会状況)を理解する

○世代間の価値観の相違を理解する

- 現代社会の産業はコミュニケーションを必要とする仕事が増えている(NPO法人教育研究所理事長/KHJ本部 前田生 幸田武生)
- コミュニケーション能力が職業と大きく関係する
- 終身雇用もはや前世紀の価値観
- 人材育成よりも即戦力 失敗できない企業風土
- 失敗が当たり前の時代に フロアやバリヤーまで受けない職場環境
- 一度つまづくと 切り直しが効かない社会構造

●親世代の価値観で判断すると、当事者がそのギャップに苦しんでしまうことも...特に就職氷河期世代
更に、自分は社会に不要な存在と絶望しがち...

●本人の居場所を共に探り、見守っていくという姿勢を心掛けることが大切

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 作成

居場所でも有効だったこと 「利用者同士の交流」

（利用者の声）
 KHJの活動を通して、利用者同士の交流が、自分にとってとても大切なことになった。

●「利用者同士の交流」は、居場所でも有効だったこと

- 「利用者同士の交流」は、居場所でも有効だったこと
- 「利用者同士の交流」は、居場所でも有効だったこと

●「利用者同士の交流」は、居場所でも有効だったこと

家庭訪問にはタイミングの見立てと下地が大切

「本人は会いたくないが大前提」

●「本人は会いたくないが大前提」

- 「本人は会いたくないが大前提」
- 「本人は会いたくないが大前提」

●「本人は会いたくないが大前提」

本人を尊重する支援とは？

「本人のあるがままを肯定し、本人を置いていかにしない」

- 本人のあるがままを肯定し、本人を置いていかにしない
- 本人のあるがままを肯定し、本人を置いていかにしない

●本人のあるがままを肯定し、本人を置いていかにしない

課題解決のための支援とつながり続ける支援

「本人の課題を解決するための支援とつながり続ける支援」

- 本人の課題を解決するための支援とつながり続ける支援
- 本人の課題を解決するための支援とつながり続ける支援

●本人の課題を解決するための支援とつながり続ける支援

家族の課題や困りごとから本人の支援への可能性

「家族の課題や困りごとから本人の支援への可能性」

- 家族の課題や困りごとから本人の支援への可能性
- 家族の課題や困りごとから本人の支援への可能性

●家族の課題や困りごとから本人の支援への可能性

ご清聴ありがとうございました KHJジャーナル「たびたび」(一般情報誌)

「ご清聴ありがとうございました KHJジャーナル「たびたび」(一般情報誌)」

- ご清聴ありがとうございました KHJジャーナル「たびたび」(一般情報誌)
- ご清聴ありがとうございました KHJジャーナル「たびたび」(一般情報誌)

●ご清聴ありがとうございました KHJジャーナル「たびたび」(一般情報誌)

地域の機関・住民が連携して共に歩むということ

「地域の機関・住民が連携して共に歩むということ」

- 地域の機関・住民が連携して共に歩むということ
- 地域の機関・住民が連携して共に歩むということ

●地域の機関・住民が連携して共に歩むということ

民生児童委員が関わった事例

「民生児童委員が関わった事例」

- 民生児童委員が関わった事例
- 民生児童委員が関わった事例

●民生児童委員が関わった事例

第三者からの介入に対する本人の葛藤

「第三者からの介入に対する本人の葛藤」

- 第三者からの介入に対する本人の葛藤
- 第三者からの介入に対する本人の葛藤

●第三者からの介入に対する本人の葛藤

本人の持つ資産…能力や強みに着目する

「本人の持つ資産…能力や強みに着目する」

- 本人の持つ資産…能力や強みに着目する
- 本人の持つ資産…能力や強みに着目する

●本人の持つ資産…能力や強みに着目する

本人や家族への配慮はどうすれば？

「本人や家族への配慮はどうすれば？」

- 本人や家族への配慮はどうすれば？
- 本人や家族への配慮はどうすれば？

●本人や家族への配慮はどうすれば？

KHJ兄弟姉妹の会 親亡き後の事例

「KHJ兄弟姉妹の会 親亡き後の事例」

- KHJ兄弟姉妹の会 親亡き後の事例
- KHJ兄弟姉妹の会 親亡き後の事例

●KHJ兄弟姉妹の会 親亡き後の事例

KHJ兄弟姉妹の会 社会資源活用事例

「KHJ兄弟姉妹の会 社会資源活用事例」

- KHJ兄弟姉妹の会 社会資源活用事例
- KHJ兄弟姉妹の会 社会資源活用事例

●KHJ兄弟姉妹の会 社会資源活用事例

心の平安と落ち着きがあることで 本人のアセット(資産・強み)に気づける

「心の平安と落ち着きがあることで 本人のアセット(資産・強み)に気づける」

- 心の平安と落ち着きがあることで 本人のアセット(資産・強み)に気づける
- 心の平安と落ち着きがあることで 本人のアセット(資産・強み)に気づける

●心の平安と落ち着きがあることで 本人のアセット(資産・強み)に気づける

報 告 書

日 時 令和5年2月19日13時30分～15時15分

会 場 六郷地区センター 多目的ホール

用 務 ひきこもりに関する学習会

【報告事項】ひきこもりに関する学習会が開催されましたので、下記および別紙に報告します。

内 容:講演「ひきこもりの心身と親の声掛け」

講 師:菊池恒氏(人間関係と心の相談舎代表)

参 加 者:29人

ひきこもりと関連するデータ

・不登校10年前は16～18万人、昨年の調査で24.5万人。コロナ禍の影響もある。

・ひきこもりは長期化・高齢化。8050問題。

・親の質問は「回復の確率」や「どれ位の時間がかかる?」←「対応に特効薬なし」「どんなに可能性が低くても子どものために取り組めるか否か?」

ひきこもりの心身に起こっていること

・ひきこもりの心身 脳は寝ても覚めても力が入った状態。過去の出来事や未来への不安が「今のもの」として常時緊張している。

・真面目に律儀にやろうとしてきたが、何かのあるきっかけで失望と絶望。自分は社会に通用しない。

親の声かけ、タイミング、言葉選び、そして態度

・無条件の絶対的肯定 絶対的安心 0歳の頃を子どもは求めている。相手(子ども)都合のコミュニケーション。相手(子ども)をよく見ていないとわからない。

・「本人の問題でしょう?」は違う。

・親を見てどう育ったか?親の回復が子の回復につながる。親の人生の振り返りが必要。

・無視されても、うるさがられても、「おはよう」「おやすみ」「いってきます」「ただいま」「ごめんなさい」「ありがとう」大事にされたい。大切にされたい。

その他

・親の保育と園の保育、関係があるのか?→量より質。少ないなりのかかわりを考える。

・進路の話→こもっている子は嫌う。誰が気になっている話なのか?

・食べたいもの飲みたいもの→わがままと取らない。欲求を満たすためのやりとりが必要。おこづかいが必要。

・祖父母の声掛けは?→「友達学校勉強どう?」気にかけていることを表す。

・支援者は親とまず良好な関係を築く。

・ひきこもりの方策 → 本人がそうしたいならいいじゃん!理由・意味なんてない。なることが自然だった。自分を守ったんだ。

所感:申し込み無く参加されえる方もいた。日ごろから家族の相談に応じている講師の話はとても聞きやすく、わかりやすかった。質問もたくさん出て時間も延長された。こぼさずお答えいただいた。家族、民生委員、ボランティアそれぞれの立場で充実した勉強会になったのではないと思う。



菊川市社会福祉協議会／学習会

◆◆◆ ひきこもりの心身と親の声かけ ◆◆◆

2023年2月19日(日)13時30分

@六郷地区センター

多目的ホール

代表 菊池 恒

1. ひきこもりと関連するデータ

- ① 不登校者数 約24.5万人(2021年文部科学省調査)
- ② ひきこもり者数 約54.1万人(15~39歳/2015年内閣府調査)
約61.3万人(40~64歳/2018年内閣府調査)
- ③ 親の質問「回復の確率は?」「どれくらいの時間がかかる?」
その回答「対応に特効薬なし」

2. ひきこもりの心身に起こっていること

- ① 緊張と弛緩、脳は過去から未来まで寝ても覚めてもフル稼働
- ② 子の思い「社会に通用しない」「大人社会への失望と絶望」

3. 親の声かけ、タイミング、言葉選び、そして態度

- ① 無条件の絶対的肯定・尊重、絶対的安心感、幼少期の甘えと承認欲求
- ② 親が取り組んで、向き合う必要性がなぜあるのか
- ③ 「命令じや人の心は動かせない」

4. 付録

- ① キーワード
不安・恐怖・怒り、幼児退行、(遅れて来た)反抗期、気づかい・遠慮
- ② 参考文献・おすすめ書籍
 - 1) 『子は親を救うために心の病になる』高橋和己 ちくま文庫
 - 2) 『自分のせいだと思わない』小池一夫 ポプラ社
 - 3) 『答えのない道徳の問題 どう解く?』やまざきひろし ポプラ社

国籍や人種、肌の色、性別、性格、あるいは趣味、感性。

ひとは、ときに互いの違いをきらいあう。

皆と同じに、並列に。横一線。

同調こそが、世界がうまくいく正解だと言わんばかりに、個性を抑えなくては生きづらい世の中や、周囲の声に従わなければ生きにくい世の中をつくりあげる。

ならば私たちは、心の声に従う生きかたに、胸を張れる世の中をつくらう。

感情が震え、心が躍る、理屈や建て前ではあらがえない選択。

その先にこそ、人間らしさに満ちた、本当の幸せがあると思うから。

ひとのちがいを、ひとつの大きなちからにする。

その先にこそ、古びた常識の延長線上にはない、まったく新しい未来が存在すると思うから。

自分を、生きるを、選ぶ。

私たちは、その生き事例となって、勇気を伝えよう。

私たちを選ぶことが、一步を踏み出す勇気になるように。

自分らしい生きかたは、時代でもなく、社会でもなく、隣のひとの顔色でもなく、自分自身の心の中にある。

私たちは問い続けよう。

本音をこらした先に、何がある?

本性を抑える必要が、どこにある?

わたしは、こうする、あんたは、どうする?

正解はない。しかし、答えはある。

つまるところ幸せのコツは、理屈ではあらがえないほうを選ぶことだ。

やっちゃんえよ。

本能に、感動を。

拓匠開発

Bay FM (78.0MHz) CM

©株式会社拓匠開発 <https://takusho.co.jp/about/>

勝つために戦うのではない。
己の信念をつらぬくために戦うのさ。
闘神として生まれてきたことに、
なんらかのわけをみいだすことができなければ—
わたしの存在は無になる…
だから戦う…
闘神として生まれてきた以上…
朽ちる時もまた闘神でありたい。

阿修羅王

©『黄門☆じごく変』中津賢也、1986



報 告 書

日 時 令和4年12月25日13時30分～15時15分

会 場 六郷地区センター

用 務 令和4年度第1回ひきこもり家族交流会

【報告事項】以下のとおり、報告します。

参加者:当事者家族 3名

いっぷく会(ひきこもり家族会) 1名

社会福祉協議会 3名

13:30～ フラワーアレンジメント(用意した花を自由に飾り付けした)

14:00～ 意見交換

○前回の学習会の感想、今後聞きたいこと

・「母親からの手紙がきつかった」という話を聞き、胸に刺さった。

・親から伝えたい時、どんな手段があるのか聞きたい。

・きっかけをどうしたらよいか。親としてできることは何か?(親が情報をもらうことはできるけど、そこから子どもにどう伝えたらいいかわからない。)

・先生の話聞いて振り返り、良い線まで行ってるのではと思う。

・自分が亡くなった後、どうなってしまうか心配はある。

○それぞれの家族の話

・最初は自室にこもっていたが、最近は出てこない。親としては顔を見たい。

・見放さず、見守っている

・紙に書いて伝えたほうが良いとカウンセリングの先生に言われたが、つい口が出てしまう。

・たくさん本を読んで勉強した。三度の食事が大事だと思ったので、それだけはかかさずに一緒に食べている。

・二人三脚が大事。助かっている。そう思わないとね。

○その他

・このような機会(家族交流会)があるといい。自分の経験が他の人に伝えられたらと。

【所感等】

今回、前回の学習会参加者で交流会参加希望者10名のうち3名が参加して下さった。始めは、前回の学習会の感想や次の学習会で聞きたいことは?と社協から問いかけをしてみたが、それぞれのご家庭で抱えるひきこもり当事者の様子やご自身の思いを言って下さった。お互いに質問したり、声をかけたり、とても良い雰囲気であった。また、フラワーアレンジメントでお花を持ち帰れるのを喜んでいただけたようだった。



報 告 書

日 時 令和5年1月22日13時30分～15時15分

会 場 六郷地区センター

用 務 令和4年度第2回ひきこもり家族交流会

【報告事項】以下のとおり、報告します。

参加者：当事者家族 2名

いっぶく会(ひきこもり家族会) 2名 社会福祉協議会 3名

13:30～ キャンドル工作 雪だるま(工作キットを各自作製) 14:10～ 意見交換

○「いっぶく会」柴田さんから

・いっぶく会便りと2月19日学習会講師菊池恒さんについて 菊池さんは質問に慣れている。細かく丁寧に答えてくれる。

○それぞれの家族の話 など

・子どもに良かれと思っていても、違う風に受け取っていることがある。

・話したいときは時かまわず話す時があるが、仕事との兼ね合いで大変な時がある。自分の都合だっけ聞いてもらうことは必要。

・「待つ」ことは大変。時間が掛かるけど、今はこの子の時間と、子どもが話している時は「口を挟まない」「話のこしを折らない」「わからないことはわからないと伝える」

・声掛け一つ、受け取る側は声の大きさや口調の強さで違う。

・にっこり笑って黙って聞く(カゲヤマ先生)

・「言ってくれてありがとう。」ありがとうを伝える。

・自分が笑えば相手も笑う。

自分自身が・・・

・10年位「つぶやきノート」書いている。何でも書いていい。

・友達への手紙を書いている。

・お料理するとすっきりする。

○今後の家族交流会について

・このような会があつて良かった。・遠くへは行けないから近くで開催してくれて良かった。

・今の形で構わない。

・個人個人で違うから、他の人の話を聞くことで知り、自らを整理することが出来る。

・聞いてもらうだけでもOK。※社協として、みなさんからやりたいことを教えてもらいながら進めていきたい。

【所感等】

今回参加の家族は前回参加の3人のうち2人だった。隣同士に座り、キャンドル工作から意見交換までお互い言葉をかけあいながら帰りも一緒に帰り、いい雰囲気良かったと思う。お互いのまた参加者同士の経験の語り合いがアドバイスになり力になっている様だった。フラワーアレンジやキャンドル工作の様な時間は他の交流会にはなかなか無いことで、後の会の雰囲気も和やかになりとてもいい。現在の内容で家族交流会を続けて欲しいという意見をいただき、定着してだんだん参加される方も増えていくといいと思った。



報 告 書

日 時 令和5年2月26日13時30分～15時15分

会 場 六郷地区センター

用 務 令和4年度第3回ひきこもり家族交流会

【報告事項】以下のとおり、報告します。

参加者:当事者家族 4名

いっぶく会(ひきこもり家族会) 1名

社会福祉協議会 4名

13:30～ ハーバリウム作り

14:00～ 自己紹介 社協職員 → 参加者の順

○自分83 歳、45 歳の次男がひきこもり

パートで仕事についたこともあるが、仕事がきつかったり人間関係で1年半で辞めてしまった。社協にも相談し、作業に参加したこともあるが嫌になってしまった。静岡や川崎の救急隊員から連絡をもらったこともある。生きづらさを抱えている。2人暮らし二人三脚で生活している。手伝ってくれる。「居てくれてありがとう」という気持ちでいる。

○長女24 歳自立して清水にいる。長男22 歳家に居て仕事はしていない、次男19 歳専門学校生。次男が中学に行けない時期があったが、今は長男がひきこもり。大学に行けなくなり仕事に就いたが事故を起こしたことで辞めてしまった。「自立」と静岡でお金を借りて一人暮らしをしたことがある。精神的に弱い。人間関係が上手くいかない。自分を責める。姑が厳しい人で折が合わず2年前に菊川市に引っ越してきた。アパートなので姿も生活も見える。しゃべらないが生活できている。今は落ち着いている。勉強会や家族会が自分の力になっている。

○長男43 歳、両親(75 歳・71 歳)長男の3人暮らし。ひきこもり・昼夜逆転、暴言・暴力一通りあった。「子どもに寄り添う」「子どもの反応を見ながら」大切にしている。上昇志向、自己肯定感、承認欲求が強い。遅れてきた反抗期、思春期の様。親への吐出しが強くぶつけてくる。一緒にいられることはありがたいこと。

○長女38 歳、長男36 歳、次女34 歳。長男は高2の時に学校に行かない宣言をした。それ以降。昨年4月に夫が他界し、これからどうしようかと思う。「いつか」は何とかなるの「いつか」がわからず不安になる。

○長男18 歳、長女25 歳は県外にいる。長男は中1夏頃から自室にひきこもる様になり、それ以降顔を見れていない。家に居ながらどうしているんだろう。

14:30～ 参加者3名、2名に分かれ、話をする。

15:00 終了

【所感等】

今回参加者は4名、新しい方が1名参加された。今までの全体の情報交換から、今回は職員は入らずに参加者が2つに分かれ、話をする時間を設けた。話し込んでいて時間も忘れる位だった。終了後もすぐには帰らず、それぞれに話をしていた。自己紹介の中で、この集まりが自分の力になっていると言ってくださった方がいたが、当事者家族の方にとってこの会がその様な場になり、参加者も増えていくといいと感じた。



報 告 書

日 時 令和5年3月26日13時30分～15時00分

会 場 六郷地区センター

用 務 令和4年度第4回ひきこもり家族交流会

【報告事項】以下のとおり、報告します。

参加者: 当事者家族 5名

いっぶく会(ひきこもり家族会) 2名

社会福祉協議会 4名

13:30～ お菓子ランドセル作り

14:00～ 自己紹介・近況報告

○45歳の次男。普通って何だろう?子どもに教えられた。

今は経済的なことが気になるが、一日一日は穏やか。不幸ではない。

○今日で23歳になる。お菓子作りが好きだから、粉をプレゼントしようと思う。お菓子のバックもお菓子は食べないけどあげてみようと思う。しゃべらない。音が苦手。免許書き換えがあるけどどうしよう～

あまりさわがない様にする。

○21歳長男。就職活動なかなか受からなくて1年ひきこもっている。高校2年の時学校での出来事が引き

金になり、発達障害だとわかった。心が、コンクリートに水掛けている様。

○長男43歳。お菓子リュックをプレゼントしたことがある。すごく喜んだ。いい思い出。子どもの好きそうなものを探る。子どもの好きなものを一緒にやってみる。

○長男36歳。高校途中から通信、本人卒業したいと思っていない。病院には行き医師とは信頼関係がある。昨年床屋に行けた。自分の子どもであって子どもでない感覚が辛い。

○間もなく19歳長男。会っていない。中一の時部活で先輩がこわかったことがきっかけで人がこわい。

筆談。髪を自分で切る。歯医者に通うことで家を出れた。

○長女50半ば。短大を中退した。6～7年ひきこもった。自傷行為もあり、部屋に入ると臭かった。きっかけはラップでライブに行きたい、グッズが欲しいけどお金がないから働かないと。

14:50～ 参加者4名、3名に分かれ、話をする。

15:30 終了

【所感等】

今回参加者は5名、新しい方が1名参加された。人数も増えたことで近況報告に時間を要し、またその後の少人数での話も時間がいくらあっても足りない感じに話が続いた。今後は終了時間を15時30分にすることを提案した。



柱3: 家族支援【アンケート・ヒアリング】

アンケートの対象者層		40代～80代		
利用者・参加者数（人）		回答者数（人）		回答率（%）
7		7		100%
とても満足（人）	満足（人）	やや不満足（人）	不満足（人）	未回答またはアンケート対象外（人）
5	2			
満足・不満足的主要原因（自由記述）				
<p>・家族会の皆さまと話し合う前の工作などであれこれわちゃわちゃ楽しめて良いひとときです。重たいテーマなのでこういう時間がありすくわれます。・家では1人で悶々と考えて本人に働きかけていたが、この交流会に参加させて戴くようになってから、皆さんとの関わりや、その方々の事例を知ること、自分にどこか安心感（同士がいる！）や気持ちに余裕が生まれました。（今日は出かける支度をしている時にも気持ちの変化に気づきました）</p>				

家族支援として、①ひきこもりに関する学習会、②ひきこもりの状態の人を抱える家族交流会を開催しました。

①の学習会、②の家族交流会ともに、KHJ全国ひきこもり家族会連合会 静岡県「いっぷく会」に相談し、また協力をもらいながら開催しました。

①の学習会では、コロナ禍ということもあり感染予防対策をとりながらの開催でしたが、1回目は19人、2回目は29人という参加があり、ひきこもりの状態の人への関わり方等に関心がある方が参加してくれ、好評でした。また参加者の内、家族の人からは家族交流会開催の希望もあり、②の家族交流会の開催につながりました。

②の家族交流会では、学習会からの参加者3人から始まり少しずつ参加者が増えてきました。内容としてアイスブレイク的に簡単なワークショップを取り入れ、楽しんでもらい気分転換にもなるような会として開催しました。

参加者からは「満足」という回答を多くもらいました。

1 事業を振り返って

柱1の居場所については、この事業と通して先進地よりワークショップ形式を取り入れたことと、本人主体で取り組むことと取り入れることができ、参加者からは「満足」という回答をもらうことが出来ました。

柱2の資格取得支援については、参加者の内11人に修了証を交付することができ、何人かは就職や就労につながることが出来、参加者から「満足」という回答をもらうことが出来ました。

柱3の家族支援については、ひきこもりに関する学習会の開催から、家族交流会の開催につながることが出来ました。“ひきこもり”という特性からなかなか相談しづらかった家族の人たちが、同じ立場で日頃の悩みや不安を語り合う場を作ることが出来、参加者から「満足」という回答をもらうことが出来ました。

2 課題

柱1の居場所について、コロナ禍ということもありましたが、支援機関の担当者が交代してしまったことによって、対象者との関係性が変わってしまい、信頼関係を1から作り直すことになり、対象者を居場所へ誘い出すことが困難となってしまいました。

特に発達障害という特性を持った対象者が居場所に参加することの難しさを感じました。

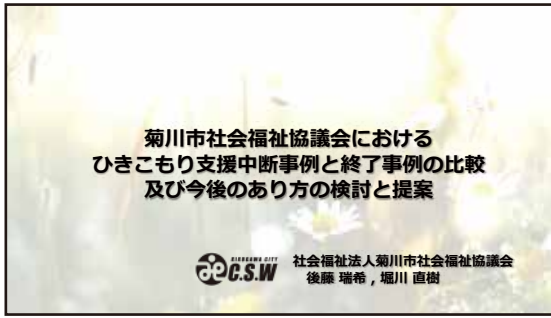
3 今後の展望

柱1～3ともに参加者から「満足」という意見が多いため、参加してもらえれば何かしらの効果を与えられると考えます。

そのため、対象者に参加していただくことが出来るように、今後は他の支援機関にも事業について理解を得て、参加の支援に協力をしてもらうようにします。

また、市内の様々な法人等が参加する菊川市セーフティネット支援ネットワーク会議にて共有し、事業展開を図っていきたいと思います。

參考資料



これまでの相談支援について
2012(H24)/8/13~2021(R3)/3/31の相談者 (83人)

表1

性別	就労経験			支援の状況					医療・福祉ヘルパー					
	有	無	合計	中断	継続中	紹介	終了	合計	医療	福祉	就労	教育	合計	
男	52	22	30	52	17	8	14	13	52	3	1	3	7	14
	63%	69%	59%	63%	20%	10%	17%	16%	63%	13%	4%	13%	30%	61%
女	26	10	16	26	8	2	8	8	26	0	4	1	3	8
	31%	31%	31%	31%	10%	2%	10%	10%	31%	0%	17%	4%	13%	35%
不明	5	0	5	5	0	0	1	4	5	0	0	0	1	1
	6%	0%	10%	6%	0%	0%	1%	5%	6%	0%	0%	0%	4%	4%
合計	83	32	51	83	25	10	23	25	83	3	5	4	11	23
	100%	100%	100%	100%	30%	12%	28%	30%	100%	13%	22%	17%	48%	100%

内容

- ① 研究の背景と目的
- ② 研究の方法
- ③ これまでの相談支援について
- ④ 支援が中断した人と終了した人との比較
- ⑤ 事例
- ⑥ 考察及び提案

支援が中断（失敗）した人と終了（成功）した人との比較

表2

支援	合計	性別			相談者			不登校の有無	ひきこもりの有	精神科・心療内科受診歴の有	就労経験の有	
		男	女	不明	本人	家族	本人・その他					
中断(失敗)	25	17	8	0	1	20	4	0	12	20	5	11
	100%	68%	32%	0%	4%	80%	16%	0%	48%	80%	20%	44%
終了(成功)	25	13	8	4	1	18	6	0	17	9	11	7
	100%	52%	32%	16%	4%	72%	24%	0%	68%	36%	44%	28%

研究の背景

本会では、ひきこもり問題について平成24年度より取り組み始め、10年が経過した

しかし、支援内容がケースバイケースとなっており、成功した事例と失敗した事例の原因が不明確な現状である

事例① 中断（失敗）

対象者	30代 男性
最終学歴	高校 相談者
不登校の有無	無 ひきこもりの有無
精神科以外受診歴	無 精神科・心療内科受診歴
就労経験の有無	無
どのようにつながったか	「ひきこもり・不登校無料相談会」に母親が来所。本人は高校中退後、ひきこもり
どのように支援したか	「ひきこもり・不登校無料相談会」に母親が毎月相談来所し、本人の家庭内での役割を持てるようにと助言し、夕食の準備を自分の仕事としてするようになり、母親の仕事である花の栽培を手伝うようになった。家の中での役割は継続して出来ている。
どのように経過で中断したか	「ひきこもり・不登校無料相談会」では、相談員を元教育相談員等に担ってもらいながら、実施してきたが、相談会を終了し、本会相談窓口（職員の相談員）に変更になることをきっかけに母親は相談を中断した。

研究の目的

今回事例研究を通して、支援が中断した事例と終了した事例を抽出し比較することで、促進要因と阻害要因を明らかにし、菊川市におけるひきこもり支援のあり方を検討する

事例② 中断（失敗）

対象者	20代 女性
最終学歴	不明 相談者
不登校の有無	無 ひきこもりの有無
精神科以外受診歴	無 精神科・心療内科受診歴
就労経験の有無	有
どのようにつながったか	本会広報紙で中間的就労の記事を見たということで、本人が、ボランティアをやりたいと来所相談。摂食障害があって10年くらい働いていない。
どのように支援したか	市内小規模デイサービスにて、ボランティアを開始。本人からは早く就労したい意向があったが、その一方でサービスからは頑張りすぎている様子について心配されていた。本人の意向により、就労支援としてサポートステーションにつなぎ、本人が就労体験場所を選んでいくことになった。
どのように経過で中断したか	サポートステーションの支援により、就労体験をしたが、体験先の男性の異が大きいことが気になったことから、体調を崩す。過敏性腸炎、脱毛症、摂食障害となり、一週間に1.5キロ痩せてしまった。ドクターストップがかかった。

研究の方法

今回事例研究では、支援が中断した事例を「失敗」とし、支援が終了した事例を「成功」とし、比較した形で研究を行うこととする

事例③ 終了（成功）

対象者	10代 男性
最終学歴	中学 相談者
不登校の有無	有 ひきこもりの有無
精神科以外受診歴	無 精神科・心療内科受診歴
就労経験の有無	無
どのようにつながったか	「ひきこもり・不登校無料相談会」に母親が来所。中学卒業後、就労したいと相談あり。
どのように支援したか	ボランティア体験・就労体験を市内の就労支援B事業所にて受け入れをしてもらった。定期的にモニタリング会議をし内容を検討したが、本人が積極的な作業をするため、3ヶ月後には中断就労とし、活動の対価を支払うようになった。その後、本人がやりたいことができた高校進学について話をするようになった。
どのように経過で終了したか	通信制の高校に進学が決まったため、終了とした。

事例④終了（成功）

対象者	40代 女性		
最終学歴	不明	相談者	本人・家族
不登校の有無	無	ひきこもりの有無	有
精神科以外受診歴	無	精神科・心療内科受診歴	無
就労経験の有無	無		
どのようにつながったか	障害福祉の地域活動支援センターより、就労体験について紹介され、本人と母親と、就労体験をしたいと相談開始。		
どのように支援したか	2つの社会福祉施設（①デイサービス、②就労継続B型事業所）で就労体験を開始、モニタリング会議一般就労は難しいと判断され、3〜4か月後の会議で、療育手帳を取得し福祉就労としての利用をしていくことを本人とも確認した。		
どういう経過で終了したか	療育手帳を取得し、障害福祉サービスとして利用開始となったため、終了		

今後、菊川市に求められる支援体制



結果（事例①〜④のまとめ）

	菊川市における事例の特性、促進要因、阻害要因
中断（失敗）	【事例①】 相談者が親のみ。親が相談に来なくなると途切れてしまう。 【事例②】 本人が相談に来るが、背景に精神疾患がある。途中で精神疾患が悪化となる。
終了（成功）	【事例③】 本人が相談に来る。社会参加の機会を提供でき、本人が回復した。 【事例④】 本人の背景に知的障害等、福祉的課題があっても制度につながっていなかったが、「ひきこもり」をキーワードに見えてき、制度につながる。

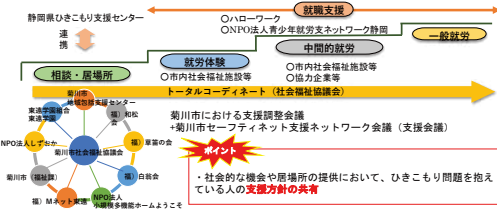
考察（支援中断と終了）

表2'

支援	合計	相談者				不登校の有	ひきこもりの有	精神科・心療内科受診歴の有	就労経験の有
		本人	家族	本人・家族	その他				
中断（失敗）	25	1	20	4	0	12	20	5	11
	100%	4%	80%	16%	0%	48%	80%	20%	44%
終了（成功）	25	1	18	6	0	17	9	11	7
	100%	4%	72%	24%	0%	68%	36%	44%	28%

菊川市の特徴や今後必要な支援体制①＜強化＞

終了した人は、社会的な機会や居場所の提供から、エンパワメントにつながってひきこもりが解消されたり、市内の各支援機関や社会福祉施設との連携及び協働から課題の発見や支援方針の決定をし、必要な支援につなげるように既存の会議体による支援体制の強化を図る



菊川市の特徴や今後必要な支援体制②＜開発・改善＞

相談者が親のみの場合

親の気持ちを受け止めたり、共感体験を通して、不安や悩みの解消になる場所が求められる。



ex. 親のグループづくり

背景に精神疾患がある場合

医療や相談支援事業所などの精神障害等の専門機関と連携・協働する体制の構築が求められる。



ex. 医療を含めたケースカンファレンス